

**R-トレアキシン療法**

血液内科： 管理番号 RSJ030

処方医：

適応：非ホジキンリンパ腫

4週毎に1コース 最大4～6コース

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
リツキシマブ	●																											
トレアキシン		●	●																									

身長：  cm 体重：  kg 体表面積  m<sup>2</sup> ( 年 月 日現在)[投与スケジュール] (  クール目) 前回投与日( 月 日)

Day1( 月 日)

本管		側管	
薬剤名	投与量	薬剤名	投与量
【内服】ポラミン錠2mg 30分前	3錠		
【内服】カロナル錠 30分前	2錠		
生食100mL 穿刺・プライミング用	1瓶		
		生食 (リツキシマブ10倍希釈)  リツキシマブ 375mg/m <sup>2</sup> (非炎症性)[投与速度注意] インフュージョンリアクション注意 特に初回～2回に注意	生食でリツキシマブを 10倍希釈する
生食20mL [静注]	1管		

## ※リツキシマブ投与速度

- ・初回 25mL/h(60分)→100mL/h(60分)→200mL/h
- ・前回投与時に発現した副作用が軽微でなかった場合投与速度：  
25mL/h(60分)→100mL/h(60分)→200mL/h
- ・前回投与時に発現した副作用が軽微であった場合投与速度：  
25mL/h(30分)→100mL/h(60分)→200mL/h

Day2( 月 日) Day3( 月 日)

本管		側管	
薬剤名	投与量	薬剤名	投与量
グラニセロン点滴静注用バッグ3mg デキサート注 [30分 点滴静注]	1袋 9.9mg		
生食250mL [90分 点滴静注]	1瓶	生食250mL 注射用水 トレアキシン 90mg/m <sup>2</sup> [60分 点滴静注](炎症性)	全量250mL
生食20mL [静注]	1管		

プライミング・閉鎖式

**注射部位反応注意**100mgあたり注射用水40mLに溶解  
調製後3時間以内に投与終了すること

[適正使用基準] (国内第Ⅱ相試験投与開始基準)

[DLF] 好中球減少

1. PS		0～1
骨髄機能	好中球数	≥1500
	血小板数	≥100000
肝機能	GOT	≤82.5
	GPT	≤105
	TBIL	≤1.95
腎機能	クレアチニン	≤1.65
心機能	心電図	正常
肺機能	PaO <sub>2</sub>	≥65

[次サイクル開始の目安]

好中球数	≥1000
------	-------

血小板数	≥75000
TBIL	≤2
クレアチニン	≤2

投与間隔又は投与量の調節

休薬	次サイクル投与開始にあたり、好中球数及び血小板数が右記の指標に回復するまで休薬すること	好中球数1000以上 及び 血小板数75000以上
減量又は休薬	治療中に右記の指標に該当する骨髄抑制が認められた場合には、休薬の項の指標に回復したことを確認の上、次サイクルの投与を開始すること。その場合、以下のとおり減量又は投与中止を考慮すること ・ 前サイクル投与量120mg/m <sup>2</sup> の場合:90mg/m <sup>2</sup> に減量 ・ 前サイクル投与量90mg/m <sup>2</sup> の場合:90mg/m <sup>2</sup> に減量 ・ 前サイクル投与量60mg/m <sup>2</sup> の場合:投与中止 なお、減量を行った場合には、以降投与量を維持し、増量しないこと	好中球数500以上 及び 血小板数25000以上

投与間隔又は投与量の調節

休薬	次サイクル投与開始にあたり、好中球数及び血小板数が右記の指標に回復するまで休薬すること	Grade2以下の非血液毒性 総ビリルビン:2mg/dL未満 血清クレアチン:2mg/dL以下
減量又は休薬	治療中に右記の指標に該当する骨髄抑制が認められた場合には、休薬の項の指標に回復したことを確認の上、次サイクルの投与を開始すること。その場合、以下のとおり減量又は投与中止を考慮すること ・ 前サイクル投与量120mg/m <sup>2</sup> の場合:90mg/m <sup>2</sup> に減量 ・ 前サイクル投与量90mg/m <sup>2</sup> の場合:90mg/m <sup>2</sup> に減量 ・ 前サイクル投与量60mg/m <sup>2</sup> の場合:投与中止 なお、減量を行った場合には、以降投与量を維持し、増量しないこと	Grade3以下の非血液毒性

[重大な副作用]

- ・骨髄抑制
- ・感染症
- ・間質性肺疾患
- ・腫瘍崩壊症候群
- ・重篤な皮膚症状
- ・ショック、アナフィラキシー